海外協定校長期派遣留学報告書

氏名：秋山祥隆

学部学科名：農学部　農学科

留学先学校名　Wageningen University & Research

1.留学の目的

私が今回オランダへ留学させていただいた目的としましては、様々な理由があります。

まずは単純に英語力の向上です。もとから英語が特別苦手ではなかったものの、自身の英語力は将来自信をもってアピールできるレベルには到達していませんでした。そこで私は自ら英語を話す環境で鍛錬し、自信をつける必要があると思いました。

次に、農業や食品において世界最高の大学、研究機関だからです。園芸学を専攻している身からしますと、plant science で世界一の大学はどのようなシステムや授業なのか非常に興味があり、またどのような生徒がいるのかも非常に楽しみでした。

最後は視野を広げるためです。自分は将来グローバルな働き方がしたいと考えているためそこで必要なのは英語力だけでなく、様々な文化への理解と適応だと考えています。そこで友達やインターネットに乗っている他人の体験談ではなく実際に自分で経験、そして関わることで視野が広がり自信につながります。そのほかにも海外の友人やネットワークを創ることで日本にいたときじゃ当分知りえなかったことを知ることができ海外旅行がより一層楽しめると考えました。

以上の３つの理由を主な軸としこの１年間を経験そして成長の年として楽しくそして苦しく堪能させていただきました。

2. 現地での生活について

（住居、キャンパス、友達との交流、余暇の過ごし方など）

住居につきましては、room.NL という学生寮を提供してくれるサイトに登録し EU 圏外の学生だったため順番待ちせずに必ず部屋をゲットできるという良心的なシステムだったため入手することができました。とはいえ難なく早問題が解決したわけではなく、実際に内見もできないですし寮によって値段が違うのに実際の評価もよくわからず選ぶのにかなり時間を要しました。結果的に、私は学校から一番近い寮で半共用の Bornsesteeg の一番小さい部屋を選ぶことになりました。キャンパスへは自転車、歩きともに５分程度の場所で、私の場合はトイレとシャワーを共用しなければなりませんでした。

キャンパスにおいては私自身研究室に属しているわけではなかったため、基本的には Forum,Orion,Aurora とこの 3 つの建物を最も使用していました。もともとテスト期間などは家で勉強していたタイプで今までは何とかなっていたものの、第二学期近くで明らかに効率が悪く単位が取れるかどうか怪しい状況だったので少しずつ自分の部屋から飛び出し、自分が最も集中できる場所の模索を始めました。キャンパスの建物の中ですと必ず誰かいて賑わっていますので図書室に最初は行こうと考え早速足を運んでみたものの、ドアを閉めた瞬間待っていたのは主張が大きすぎる静寂でした。人があまりにも多いのにもかかわらず、ほとんどの人は集中し、

息をする音も申し訳なくなるくらいの静けさが私を襲いました。ここではないなと瞬時に判断した私は、一階下の誰でも座れる机が集まっている場所に腰を掛け、雑音の中でなんと今までよりずっと集中できたことをきっかけに私は適度な雑音があったほうが集中できるとわかりそこからはキャンパスで勉強することになりました。
友達との交流に関しては様々な方法があります。Wageningen という町では学生がほとんどでかつすごく大きな町ではないため過ごす期間がある程度長いといろんな人と顔見知りであることが多いです。しかも様々なコミュニティが存在します。友達が招待してくれたパーティーに参加すると多くがほとんど知らない人ではありますが皆さんとてもオープンであり友達の友達であるケースも少なくないので友達を作るという観点では国内にいたころよりも容易だなというイメージです。自分は大人数があまり得意ではなかったため、自分でコミュニティを創ろうと考えました。一番手っ取り早かったのは自分の寮でした。お互いあいさつ程度しかない場所であまり親しい人も多くなかった私は挨拶がてら一人ひとりのドアをノックし全部スムーズにいったわけではありませんが全員の入ったグループチャットを作り、毎月寮のご飯会をするようになり活発な場所に変わりました。特に目の前に住んでいるハリスとは約一年間大切な友人として接し、今でも連絡を取り合う仲です。私はたまたま奨学金のインタビューで同大学に留学する同氏ができたので日本人のコミュニティも共に友好関係を交わし、バランスよく様々な国籍の方と交友関係を築けたと実感します。人の好さが居心地の良さだと改めて感じました。
余暇の過ごし方についてなのですが、当初は初めての一人暮らしだったこともあり、新生活のルーティンができるまでは土日にこれをしようと計画はあまり立てていませんでした。ところが講義が始まると講義についていくのに必死で週末も勉強していました。ようやく慣れてきて初めて平日の午後に友人の家に遊びに行ったり、ポットラックをしたりしました。日本人の友達とは月に 1, 2 度必ず集まり自分と似た境遇の人もたくさんいて会話が尽きることがありませんでした。そのほかに空いた土日はいつも一緒にいてくれる寮の友達とオランダの様々な場所に探検しに行きました。アムステルダム、ユトレヒト、デンハーグ、ライデン、テセル島などなどオランダを代表する場所へ観光することができました。きれいな景色が日頃周りにあるため、ありがたいことに予定がない日が少なかったように感じます。

3. 留学を通じて学んだこと
留学を通して学んだことは主に 3 個あります。まずはみんな人間であることです。誰もがわかるような簡単な問題につまずき、講義について行けず、ひどく落ち込んでいた時に思い切って隣の人に聞いてみたところ丁寧にわかりやすく説明していただきました。そこからお互いのことを聞いたり話したりしていくうちに一緒に講義を受けることになり、今でも連絡を取る友人ができました。同じようにいろんな人に話しかけ、同様にたくさんの友人ができました。このことから潜在意識で無理だと決めつけるのではなく、まずは行動をとることによって人や物事への理解を深めることができたと実感しています。
次に学んだこととしましては、タイムマネジメントと自分への理解です。この一年間は私が生きてきた中でもトップレベルで忙しい期間でした。英語力やアカデミックな部分でもまだまだレベルアップする必要があった私にとって授業や実習、さら

にはテスト、はっきり言ってこれらは挑戦そのものでした。当初は初めての一人暮らしということもあり、家事、勉強、そして友人との時間でバランスとることの難しさをあまり理解していませんでした。いよいよ学期が始まり学習量が想像するよりはるかに多く、圧倒され土日も寮の部屋で勉強する生活を数週間過ごしました。友人に遊びの誘いを断るのも嫌になり、ついに外出することを決め、なぜこの情報量でみんなは遊ぶ余裕があるのかと質問してみることにしました。みんなの答えは似ているようなものでした。平日の授業後普段私が疲れてぐったりしている時間にみんなはコツコツ努力を積み上げていたのです。そこから学びを得て私も講義後キャンパスに残り宿題を週末まで残さない主義を徹底しそれ以降思うように時間の管理を行うことができるようになりました。時間の使い方を学ぶと自由な時間がさらに増えて私生活が充実しリラックスできる時間も増えたのでこの学びはこれからの人生にも大きく役立つと考えています。

最後はやはり言語力だと思っています。自分は英語には特別苦手意識がなかったもののやはり英語で講義を受けるというのはかなり不安が伴うことでした。カリキュラム上必ずディスカッションがあり、自分の意見に自信をもって発せなければいけない場が多数存在し、最初は頭が真っ白になることも少なくなかったのですが場数を踏んでいくうちに慣れてきて自分が話そうとしていることも段々口に出せるようになりました。日常会話でも簡単なものから始め友達と冗談が言い合える水準までもっていくことができました。自分は幸い中国語も話すことができますが、日常会話レベルにとどまり、この言語をどうしても上達させたいと思った私は中国の友達と遊びに行くたびに中国語オンリーにしてほしいとお願いし、少しずつレベルを取り戻していきました。

ここまで書いておいて気づいたのですがおそらくこれらは自分の言語力が上がったからではなく、自信がついたから出てきた自然なものなのではないかと思います。何事もやる前から決めつけず、学ぶ姿勢でとにかく挑戦してみる。この行為こそが恐怖の根源であるわからない、を克服し、自信を生むもっとも単純で最短な道だと学びました。

この三つ以外まだまだありますが大まかな内容はまとめました。自分は交換留学生という立場であったので様々な分野の講義を履修することができたことも非常に幸運なことだと感じています。専攻分野にとらわれず一つの物事を様々な視点で見ることができるようになったことはこれから社会だけでなく人生において大きな財産になると確信しています。

4. 留学経験を今後どのように活かしていきたいか

この一年間の経験は自分が生きてきた21年間の中でも最も濃い年の一つです。様々な人、文化、思想そして状況に出会ってきました。個人的な考えにはなりますが、活かしていきたいと思わずともこの経験は勝手に私生活や仕事に生きてくると思っています。私にとってのこの一年はただただ農学や食品の分野において世界一の大学で講義を受け知識を深めるだけでなく、それと同時に自分の視野、異文化の理解力そしてグローバルな友人を作るというのも私の大きな目標の一つでした。この目標を達成することは将来海外でいろんな方と関わって働きたいと思っている私にとって必要不可欠であり同時に社会人になる前に異なる文化圏の人々と関われる機会をいただけたことは心から感謝しています。この経験は様々な背景を持つ人

やチームを一つにまとめ、ばらばらだった矢印を一つの方向に揃え、チーム全体の団結に役立つと考えています。
また、怖いからやめようかな、ではなく、怖いからこそ挑戦してみようというこの精神がこれからの人生においてどんな年になっても一歩を踏み出す挑戦に喜びを感じるのではないのでしょうか。

続けて書きましたが、私の一年を通しての包括的な報告をさせていただきました。もとからあまり文章を書くのは得意ではない中でわたくしなりに全力で書かしていただきました。文章では私のこの素晴らしく貴重な経験は伝わり切れないのはとても残念なことなのですが、経験は他者には伝えきれないものだと無理やり腑に落とすと人生は美しいなと痛感しました。いいこと、つらいこと、この一年間てんこ盛りでしたが、家族、現地そして日本にいる仲間、さらには東京農業大学、Wageningen University Research のおかげで乗り越えることができました。こうやって過去を思い返してみると自分はほんとに運がいいのだなと改めて思います。これを読んでいる方々、乱雑な文章ではありますが最後まで読んでいただきありがとうございます。皆様のこれからの発展をお祈りしています。

以上